

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業所自体が地域の一員として、入居者がその人らしく暮らしていけるよう独自の理念を作り上げている。		
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	日々、全体の申し送り時理念を唱和することで職員間の共有を行なっている。又、全職員が携帯いつでも確認が取れるようにしている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	施設内のいたるところに理念を掲示していたり、地域への広報などを通して理解していただけるよう取り組んでいる。又、パンフレットに理念を載せている。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	行事の際回覧板を回したりしている。又、行事がなくても気軽に立ち寄れるよう呼びかけている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内での行事に参加し、施設の行事にも近所の方が参加されている。又、近所の方を介し施設に遊びに来られる方も出てきた。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	近隣の高齢者の方が遊びに来たり、秋祭りに参加していただいたりと気軽に立ち寄りやすいような雰囲気作りに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいる項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	定期的に自己評価・外部評価を行なう事で普段は気づき難い部分にも気付くことが出来、自分達の業務の改善点を改めて見直し改善することが出来る。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、施設の状況や実態について理解していただけるような会議の運営に努めている。又、皆さんから頂いたご意見は施設内で実際に行なえるかどうか検討し取り入れている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議以外は市町村と連携する機会は少ないものの、管理者会議などにて情報の交換を行っている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	権利擁護が必要な入居者がおらず、現在学ぶ機会は無いが、必要時にはカンファレンスを設けて学び活用していきたい。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	虐待については、ミーティングの機会を設け勉強会を行っている。又、日々全身確認や言葉の暴力等無い様にし虐待防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約を行なう際は利用者及びご家族の方が理解しやすいような言葉に配慮し、納得していただけるような説明に努めている。		
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議などに参加して頂き外部者へ表せる機会を設けてはいるものの、意見・不満・苦情を引き出すことが難しい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>毎月ホーム便りや医療情報にて状況や暮らしぶりを報告している。又、来訪時や電話などにて報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議やご家族来訪時お話しする機会を設けているがご意見を頂けることが少ない。</p>		ご家族が意見を言いやすい雰囲気作りや機会を増やす
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>各個人からはその都度意見を聞き、全体の意見は月1回の会議にて話し合いをし反映している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>その日の状況により勤務調整が出来る体制である。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>離職は止めることが出来ないが、職員が変わった場合は、他職員がフォローに勤めるなどし入居者と馴染みやすいような配慮を行なっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	経験年数等に応じて外部研修を受けたり、スキルアップを望む職員には各自研修などに参加出来るよう配慮している。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他グループホームと職員間の交流する機会は殆ど無いが、同区グループホームの職員研修等への参加を通して情報交換する機会などがある。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員がストレスを溜め込まないように、日々会話などにて職員が抱えている悩みを解決する方向に管理者などは努めている。		
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員個々の努力や勤務状況等を把握し楽しく前向きに勤められる様な会話や雰囲気作りを意識している。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談時から入居者が馴染みやすく不安を抱えて生活がスタートしないよう、出来る限り話を聞くよう努めている。又、他入居者との橋渡しなどにも努めている。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談時からご本人とは別にご家族の考えや不安な点を出来るだけ聞くように努めており、入居後も小まめに情報をお伝えするようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初回の面接時ご本人・ご家族の方々が「どのようなことに困っているのか」をじっくりお聞きし、当施設以外にも必要なサービス紹介を行ない当人やご家族に選択していただいている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に当施設を見学して頂きご本人・ご家族に雰囲気確かめてもらう機会を設けており、新しい入居者が馴染みやすいような工夫を心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	人生の先輩として尊重し、分からない事は教えて頂き支えあう関係を築いている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の方の要望には親身に相談にのり話し合い、一緒に本人を支えて行ける様に努めている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族と入居者の橋渡しをし安心して日常生活が送れるように支援している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	電話や手紙・年賀状を書いたりし関係が維持できるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士の人間関係を把握しお茶会等をセッティングしたりし、より良い関係を築けるように努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現在、退去後関わりを必要とされる入居者がおらず行なってはいないが必要時には関わりの継続を行なうことが出来る。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望を常に確認し納得出来る生活をして頂くように努めている。又職員同士で話し合いなど行ない入居者が何を望んでいるのか理解に努める。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の情報や家族来訪時の会話や情報を元に把握している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日バイタルチェックや体調確認をしている。又テレビを一緒に観たり、スキンシップを多く持ち表情を監察し無理の無い過ごし方をしていただいている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人の意志を聞いたり、会話の中からヒントを得て話し合いをしより良く暮らせるよう意見を出し合い作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	突然の状況変化があった場合、その都度申し送り時など問題について話し合いを行い対応している。又、結果もどうか話し合っている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人の記録や業務日誌に様子の変化があった場合記入しており、又、職員が全員出勤した際確認できる状況にあり職員全員が対応出来るよう情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 ^の の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人・ご家族の要望に応じて希望が叶えられるよう努めているが内容によっては行なえないこともある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	現在、地域資源とのかかわりは必要性の薄さから少ないものの、民生委員の方が手芸教室のボランティアに来てくださっており何時でも地域と繋がる事が出来る。又、学童保育の児童との交流ももてるようきっかけ作りをしている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現時点で他サービスの利用を必要とする入居者は居ないが、必要時は橋渡しに努める。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在協議の必要性が薄い ^が 運営推進会議に毎度参加してもらいお互いの情報交換や必要時相談できる体制を作っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ病院の医師・看護師が定期的に往診に来られており、常日頃から入居者の健康状態を把握していただいている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	週1回の馴染みのホームドクターが往診にこられており、長年認知症の症状を診察して貰っている。入居者からも健康や生活に関する相談を気兼ね無く相談出来ている。馴染みのホームドクターが全身の診察をされていることに加え、年1回脳外科にて検査も行っており、必要時更に専門医に掛かれる体制をとっている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護ステーションから看護師が毎週訪問に来られ日常の健康管理について相談できている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が入院した際は直ぐ状況報告出来る限り早く退院に向けて治療が進むよう情報交換を行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	常日頃から御家族へ現状を伝えるよう努めており状況をみて相談している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	医療行為の伴うターミナルケアは困難であるが、入居者の状況に合わせて「出来ること」を医師・ご家族と相談しながら取り組んでいきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	退居される時はご本人が次の住み場所に受け入れられ馴染めるよう情報を提供したり必要時は打ち合わせを行なっている。		現在、ケアマネ用サマリーを作成している
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	言葉の内容、声のトーン、場面など気を付け一人ひとりの側に行き耳元で話しかけるよう心掛けてはいるも、とっさや馴染みの関係で馴れ馴れしい言葉掛けや不快に思われるときがあるかもしれない。記録などは入居者さんの目に付かないよう伏せて置いたり名前の記入はイニシャルで記入している。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人が分かりやすいように短い文章や方言を使い答えやすいよう(選びやすいよう)選択肢は少なく出している。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々入居者の体調確認や表情等に合わせて出来る限り本人のペースで過ごしてもらえよう工夫しているも希望に添えない時がある。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の希望を聞き訪問理美容でカットしてもらったり行事がある際はマニキュアやメイクアップなどを行なっている。毎日化粧をしていないも眉を書いたり洗面後クリームを塗ったりしている。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	その日の体調や力を考え具材切りや味付けなどの食事の準備や片付け下膳等して頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	その日の状況にあわせて本人の希望に添って提供しおやつ作り等に参加して頂く事もある。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの習慣やパターンを把握し排泄できるよう支援している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴可能で一人ひとりに合った対応をし入浴を楽しめるように努めている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	自室でテレビを観たり、居間で自由に過ごされたりしているが、体調や気分が優れない時等は自室での休息を促している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりに合った役割を負担にならない程度行なってもらい支援している。例えば、新聞届けやカレンダーチェックなど。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	殆どの入居者の方はスタッフが管理している。数名は各自でお金を持っており、買い物時そのお金を使うことも可能である。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日などには、近所を散歩したり隣の公園や畑などに行き気分転換が出来るように心掛けている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	季節に合わせたドライブ外出やぶどう狩りなどにお出かけしたり、又、家族が参加しやすいように数回に分けて提供している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は自由に掛けられる。掛けることが難しい入居者に対しては職員が繋ぎ橋渡しをしている。又、年賀状に関しては職員が出せるように支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	何時でも訪問して頂ける様な環境で居心地良く過ごしていただけるよう配慮した支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束行為は行っていない。研修会等参加し身体拘束を行わないように徹底している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	家を意味しているので夜間帯のみ鍵を掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>常に職員は居間に居るか全体を見渡せる場所に居る。職員同士声掛けをし所在確認や様子確認をしている。</p>		<p>玄関の開閉時の音楽に頼り過ぎている時があるので所在は常に把握し危険がないように安全に配慮していきたい</p>
<p>68 注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>針など裁縫セットを手元に置いている人は何本あるか確認し使用する際は居間にて使用して頂く様にしている。居室で使用している場合は時々訪室し危険の無いよう見守りしている。</p>		
<p>69 事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>研修や訓練などに参加し知識を高めている。又、転倒等の事故が発生した場合は今後の対策について話し合いを行なっている。</p>		
<p>70 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>職員は順次救急法の研修を受講している。又、マニュアルを用意してあり何時でも確認できる状況にある。</p>		
<p>71 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>年2回火災訓練を行なっている。自然災害を想定した訓練は行っていないもののスタッフルームには地震防災マップや避難経路一覧表などが貼ってある。</p>		
<p>72 リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>ご家族来訪時や毎月の医療情報等でお伝えしてはいるが、相談はターミナルなど具体的なリスクが明確に成ってから積極的に話合うことが多い。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調の変化は日誌や申し送りにて職員間で共有しホームドクターに直ぐ連絡出来る体制をとり、緊急時対応マニュアルをスタッフルームに貼ってある。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の内容を理解し服薬の支援を行なっている。又、症状の変化の観察・確認をしている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便チェックを行い便秘防止に努めている。起床後は牛乳を飲んでいただいたり、又、午前中の水分摂取時に工夫し提供している。体を動かしたり散歩やお腹マッサージ等にて対応している。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一人ひとりにあった口腔ケアをしている。定期的に訪問歯科にて口腔ケアの指導を受けている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりに合った量が摂取できるよう、キザミ食やミキサー食にて提供している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがい・手洗いを徹底している。又、マニュアルがあり職員・入居者・来訪者共々気をつけ実行している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>布巾やまな板など衛生に注意し殺菌したりしている。又、食材は届いたら直ぐに冷蔵庫及び冷凍庫に保管し食中毒にならないように注意している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関先には花のプランター、畑には野菜や花を植え散歩している近所の方と話しやすくしたり玄関には鍵を掛けず自由に遊びに来られるようにしている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>飾りつけなどにより季節感を演出し居心地のよい空間を工夫している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファの配列などにより各自好きな場所で気の合う人と過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>本人の使い慣れたものや好みものを置いたり壁に貼ったりし居室内で居心地良く過ごせるよう配慮している。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>起床時居室の窓を開け換気したり、その都度状態を見ながらこまめに行なっている。</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>建物内全てに手すりも多く、バリアフリーで一人ひとりが安全に自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
<p>86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>混乱や失敗は職員がフォローし出来る力を活かしている。</p>		
<p>87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>天気の良い日は外やベランダに洗濯物を干したり、畑に花や野菜を植え水やり草取りなど手入れをし収穫を楽しみ、又、コーンポストを設置しエコを実践している。</p>		

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

入居者や職員の個性を活かし、明るく暖かな雰囲気ユニットに成っています。地域の方が来訪しやすく、お互いに支えあえる関係が築けるように努め、又、家族とも密接に関係が持てるよう到来訪時には積極的に話しかけコミュにケーションを図っています。